

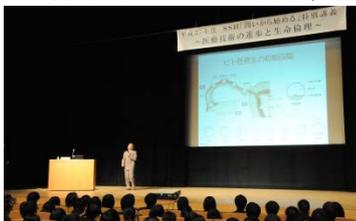


11月17日に、本校近くの赤とんぼ文化ホールにて、「SSH問いから始める特別講義」を実施しました。本年度のテーマは、『生命倫理』について取り扱いました。

本年度のテーマ設定にあたっては、生徒会の皆さんにも参加していただきました。3回にわたる話し合いの場をもち、生徒会メンバーから寄せられた意見をもとに協議してもらった結果、本年度のテーマを決定することができました。「安楽死について」と「クローンについて」という二つの小テーマを取扱うことで、今回の『生命倫理』という大きなテーマとなっています。そこで、講師の先生には、二人の異なる立場の先生をお招きすることとなりました。



特別講義にお招きしたのは、甲南大学フロンティアサイエンス学部生命化学科の西方敬人教授と神戸大学大学院医学研究科医薬食品評価科学の坂本憲広教授のお二人で、互いに異なる視点から、現代の医療における大きなトピックスでもある、「再生医療」、「臨床医学」について講義をいただきました。本校生が1年時に学習する体内の仕組みや、細胞、DNA についての内容から細かく説明いただき、現在のiPS細胞などによる再生医療がどの程度、生命倫理を考えたものであるのかといったことまで話を広げていただきました。臨床医学に関して、有名なハリウッド女優が乳がん予防のために手術をしたと公表したことに関して、医学的な考えと人が考える倫理観に差があるといったお話もしていただき、生徒たちは興味をひかれていました。



質疑の際には、「生命はどこから始まるか」という難解な質問にも、様々な観点からお答えいただき、『生命倫理』の考え方、とらえ方には一つの答えがないということが分かりました。

今回の特別講義では、講義を受ける前（事前）と講義を受けた後（事後）でそれぞれアンケートを行いました。その結果の中から、主なものをここで紹介します。

・iPS細胞から精子や卵子などの生殖細胞がつかれるようになると、皮膚の細胞から新しい人間を作るという「生命創造」に利用される恐れがあります。このことに対してどう思いますか。

- ①再生医療による生命創造は賛成 ②生命創造には反対だが、再生医療の進歩のため生殖細胞をつくる研究は必要である。
③生命創造は反対であり、生殖細胞をつくる研究も禁止する。④わからない

講義前は、1年生から3年生まで約50%の生徒が①を選択していましたが、講義後には②を選択した生徒がいずれの学年も60%近くになり、必要最低限の研究としてのみ必要性を感じるという意見が増加しました。さらに、学年が上がるにつれ②への移り変わりが大きく、3年生では、講義後に62%の生徒が②を選択しました。

・クローン技術は、現在では犬や家畜で成功し、人間への応用もいずれ可能になると言われています。この技術からクローン人間を作ることに対してどう思いますか。

- ①賛成 ②反対 ③わからない

講義前と講義後を通して、②反対を選択した生徒は6割でした。しかし、講義前に比べ、講義後に①賛成を選択した生徒の割合が1年生と3年生で5%程度増えるという結果も見られました。

アンケートの結果から、少しずつですが、『答えがない問い』に対する考えの持ち方が変化してきたように思えます。生徒たちには、これからも様々な意見を聞き、互いの立場や違う考え方も受け止めながら考え続けてくれるよう期待しています。